

朝鮮外務

復員省資料第三號

昭和二十年十二月  
復員省資料



復員ヲ中心トスル状況概観

目次

第一、各地一般状況ト復員軍隊（在留邦人ヲ含ム）ノ實情

二、滿洲、朝鮮、樺太、千島方面

其一、滿洲方面

其二、朝鮮方面

其三、樺太及千島方面

三、支那、臺灣

其一、一般状況概観

其二、軍ノ復員ニ必要解除状況

其三、軍ノ糧食状況

其四、在留邦人ノ動靜

其五、在留邦人ノ糧食状況

三、太平洋島嶼ヲ含ム南洋各地ノ状況

四、復員輸送ノ状況

第二、東亞ニ於ケル各國軍ノ状況

一、米軍

二、英、澳、蘭、佛軍

三、支那軍

四、ソ連軍



リ今頃清内ノ治安一室シク悪化スルモノト懸念セラル  
(註)「ソ」ニハ清兵隊ノ一部ヲ中共軍ニ交還セリトノ清報  
アリ

其二 朝鮮方面

一、北緯三十八度以北  
北緯ニ至ケル軍隊一隊ヲ人ノ派ハハ朝鮮方面ト同  
ハ其レ以上可憐ナルモノノ如シ  
然レドモ富方面ハ共産黨員ノ活動及朝鮮獨立運動活潑ニシテ治  
安ハ概メテ不長ナリモノノ如ク日本人家屋ハ殆ソド朝鮮人建築  
團體等ニ接セザラシ男子ハ市内ノ清掃、防空施設ノ復旧、埠頭  
ノ何反等ニ強制使用セラレ之ガ報頭トシテ一日米三合ヲ配給サ  
ラレアル其情ナリ

北緯ニ在ル朝鮮人ノ避難者約十五萬從來ヨリノ在在邦人約六  
〇萬ニシテ皆ニ朝鮮民ノ疾クト通交 尙死シタル者日ニ數十名ニシ

三

テ安東一於テハ十一月八日迄ニ死亡ナル者約三〇〇名ニ達シテ  
尙強制労働ハ農家ニ在リテハ糧食ニ困難ニ在リテハ便所掃除、  
電車ノ清掃等ニ賦カシメラレ日給ハ一五、五十錢ニシテ高物價ノ  
現在如何トモシ難ク又邦人婦女子十六才、六〇才迄ハ毎日交代  
勤務ニテ慰安婦トシテ要求セラレ之等婦人ノ八〇〇〇ハ性病ニ罹  
リ二〇〇〇ハ止癩シテアリ

三、朝鮮及軍反軍部隊ノ工場、重要工場、事業場等ハ一切之ヲ本國  
向ケテ運シテアリ

又懸念ナル朝鮮人反「ソ」軍ノ暴威ニ對シテハ共産主義者スラ又懸  
ヲ等マルニ三三一一般ニ本軍ノ進駐ヲ希望シテ四才以上ノ  
朝鮮人中テ種人一好シテ對シテ或ハラ援助スル等ノ行爲アリ  
北緯三十八度以南ニ在ル朝鮮人ハ「ソ」軍ニ對シテ「チ」チスチツブ一大將ハ十月  
十二日平壤ニ於テ左記要旨ノ報告ヲ發シ領土防衛心又ハ「ソ」  
聯防隊等ノ意圖ナキ事ヲ宣ハセリ

イ、赤軍ハ滿洲及北鮮ノ日本軍隊ヲ擊破ナリ、敗北日本軍ハ止ムヲ得ズ降伏シ三十年間侵略的日本ノ植民地タリシ北鮮ハ日本侵略同：。(十五字不明)赤軍ハ朝鮮「ソ」聯式秩序ヲ設定シ又ハ朝鮮地境ニ入植スベキ目的ヲ有セズ朝鮮人ノ私有公有財産ハ「ソ」聯當局ノ保護下ニ置ク

ロ、北鮮地境ニ殘存セル日本侵略主義ヲ徹底的ニ根絶スル爲メテノ反日民主主義國ノ結成及其ノ活動ヲ許可ス

ハ、北鮮労働者大家ニ自由結業團體、保險會社、文化啓蒙協會ノ結成權ヲ附與ス

ニ、聖皇其ノ他教會等一於テ設置スルコトヲ禁ゼズ

ホ、北鮮地境ニ在ル總テノ武器、軍用品資ヲ軍備司令官ヲテ提領スベシ

ハ、紅十字會等ノ局ニ一ノ一ノ命令部ト協議シ保安隊ヲ組織スルコトヲ許可ス

(五) 京義ニハ大體被災者救護委員會アリテ京城日本人世話會ノ滿洲駐トシテ活動中ナリシガ近時獨立シ十一月一日新發足ノ演劇團等ヲ編成シテ北鮮ニ入レ情報收集及避難民ノ救済ニ任ジアリ

ニ、北緯三十八度以南

ノ邦人保護ノ重要ニ就意努力シ來レル朝鮮軍モ十月二十七日「ハツチー中將ヨリ」日本人引揚ヲ責任ヲ免除ノ米軍ノ委任トス金山、太田、京城ニ二、六〇〇名ヲ殘置(軍司令高共)ノ其ノ他ハ十一月一日ヨリ引上グベシトノ指令ニ應シ十一月一日ヨリ軍殘留部隊ヲ引揚グルノ北ハキニ空リタリ

從ツテ南鮮ニハ太田、京城、山田ニ少數兵員(約二、九〇〇名)ヲ殘置シ十一月六日ヲ以テ朝鮮軍總司令部王力ノ離遠運送ヲ終了セリ。朝鮮軍司令部ノ三月七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、各日下旬驛岡ニ上陸ス尙濟洲海軍部ハ十一月十日頃斷不、運送ヲ完了セリ

一 一般邦人ノ引揚テ輸送ハ軍政廳計畫シ米軍ニ依リ實施セラレツ  
ツアリテ十月十九日以降一日約七、〇〇〇名ヲ釜山ヨリ出帆セ  
シメ概ネ二箇月以内ニ完了ノ見込ナリ

二 証一別ニ仁川、蔚山、不浦ノ諸港ヲモ使用スル如ク計畫シテ  
又邦人ノ私賣的氣分ハ漸ク衰ヘタルモ軍隊及邦人ノ引揚ケ及搬運  
ニ伴ヒ家屋ノ爭奪處理、財産ノ買取リニ汲々トシアリテ一部共  
産系分子ノ米軍政一対スル不満トモ目サルル言動散見セラレテ  
目ヲ憂ス

三 北鮮ニ關シテハ英、假不手ヲ遣シ又在京坂「ソ」聯總領事ニ交渉  
シ之ガ打州策ヲ講シアルモ何等ノ手前リナシ

其三 神太度十箇方面

一、洋 太 万 圓  
十月上旬頃ノ狀況ト老變ナキモノノ如ク就ネ滿洲、北鮮ト同様ナ

然レドモ其レ以後ノ脫出者ニ就テ調査セル結果ノ概要左ノ如シ  
一 將兵ノ一部ハ依然大抵ヨリ他方面ニ輸送セラレアルモノノ如シ  
二 住民ニ對スル掠奪暴行等ハ迄大影ヲ潛メ住民ハ一般ニ平靜ニ復  
歸シアルモノノ如シ

三 食糧、燃料等何等不安ナク生活狀態ハ却ツテ内地ノ比ニ非ザル  
モノノ如シ

四 樺太島内ニ於ケル交通通信ハ自由狀態ニ復歸セリ

三、千 島 方 面

一 北千島（古守、島田等）

イ、八月二十三、四日ニ於テアル武裝部隊除陸軍、海軍、日艦ニ  
三六號シテ進發セラレタルモノ「ソ」軍ノ態度ハ一般ニ溫和  
宣撫的ニシテ彼我ノ間傳言事故アリ

ロ、日本軍將兵ハ全員何レカハ輸送セラレタルモノノ如ク十月

中旬迄ニ運送セラレタル者ハ既ニ一萬名以上ニ及ブ  
ハ、日魯會社従業員ニ對シテハ之ヲ定任セシメ「ソ」聯漁業會  
社ニ於テ使用センガ爲生活ノ安定ヲ保證シツツ其ノ關心ヲ  
貫ハントシツツアルモノ如シ

2. 卷 嶺 島

在島者ハ「ソ」軍一五〇名及日本二二名（志者）ニ過ギズ

3. 南千島（色丹島）

十月末頃ノ脱出者ノ言ニ依レバ概ネ左記狀況ナリ  
イ、日本軍所在部隊ハ他方面ニ輸送セラレ現在大瀨少佐以下約  
三〇〇名在島「ソ」軍ノ命酷ナル尙役ニ從事シアルモノノ  
如シ  
ロ、一被控者ニ對スル凶暴ノ暴行爲ハ逐次平靜ニ歸シタルモ  
ノノ如シ  
ハ、食糧、燃料ノ配給充分ナルガ爲ク漁業、自家製鹽等亦許容

三 支 那 嶺 島

其一 一般狀況概観（十一月上旬現在以下同ジ）

中國戰區ニ於ケル彼我ノ接觸ハ現地中突ニアリテハ何應欽總司令部  
ト我旅道軍總司令部トノ間ニ又地方ニ於テハ各戰區司令部ト我方面  
軍（軍）トノ間ニ於テ實施セラレアリテ中國側ノ友好的態度ニ依リ  
目下、遺棄ノ廢棄處理ハ比較的順調ニ推移シツツアリ  
目下北支及ヒ北滿部印ヲ除キ全地境ノ武裝解除並ニ權益接收ヲ完了  
セリ  
管内ニ對スル我方ノ通信連絡ハ確保セラレアリテ終戰時ノ指揮系統  
ハ依然保持セラレアリ所謂武裝ナキ軍隊ノ駐留態勢ト謂フヲ得ベシ  
以下之ガ概要ヲ述ブ  
一 治 安 滿 蒙  
管内治安混亂ノ根柢ハ實ニ中共黨軍ノ蠢動ニ在リ終戰後ノ國共會

設ノ結果揚子江南岸ノ共產軍ハ遂次其ノ大部ヲ以テ江北ニ移動撤退  
 中ナルモ爾後中央軍ノ北進ニ對シテハ諷ク迄妨害ノ憂ニ出デアルト  
 共ニ華北共產軍ノ王力ハ一強ニ黨勢及地盤ノ擴大ニ狂奔シツツ所在  
 ニ中央軍ヲ攻撃シ爲ニ北支一帯ノ治安ハ甚難ヲ許サザルモノアリテ  
 重慶中央軍ノ進駐ヲ待機シソツアル各局地日本軍亦相當ノ努力ヲ累  
 ネツツアリ

(註一) 各地ノ戰況

山東省ニ於ケル日本軍ノ交戦回数ハ終戦前ニ比シ目下却ツ  
 テ増加セリ  
 山西省ニ於テハ國共兩軍ノ衝突遂次激化シアリテ陽錫山軍  
 ノミヲ以テシテハ宿務ノ治安保持殆ンド不可能ナリ  
 河北省ニ在リテハ赤軍駐ニ伴ヒ該地區日本軍ハ武装解除  
 セラレ爲ニ却テ該地ノ騒動ヲ激化セシメアリ、米ノ進駐シ  
 非ザル地點ニ在リテハ河武裝駐屯ヲ實行シアル狀況ナリ

(註二) 鐵道ノ破壞狀況

鐵道幹線ハ主トシテ重慶軍ノ移動妨害ノ目的ヲ以テ中央軍  
 ニ依リ各地ニ於テ破壞セラレアリ

(イ) 津浦線

蚌埠 | 徐州 | 濟南 | 同  
 時々破壞セラル  
 徹底的破壞ヲ受ケ目下不  
 通

(ロ) 膠濟線

最近急ク開通シ目下之ヲ  
 確保シアリ

(ハ) 京漢線

武漢 | 新縣 | 開通シアリ  
 徹底的破壞ヲ受ケ開通迄  
 ハ、二乃至三ヶ月ヲ要ス

進駐セル重慶中央軍並ニ我邊區内中國官民ノ態度ハ一般ニ敵想以上  
 平靜ニシテ憂慮スベキ事態ヲ認メズ  
 天津、廣東地區ニ於テ一時勃發シタル不法暴動ハ何レモ暴民ニ依ル

車ナル掠奪行爲ニシテ而モ少致敵愾的ニシテ目下平靜ナリ

三、車及居留民ノ配極並其ノ狀況

武装解除後ノ我軍隊並ニ居留民ハ逐次一定地域ニ集結起居シツツアリ中區個ノ取扱ヒハ見取處ニヨリテ差異アルモ寛ナル所ニ在リテハ外出モ可能ナルカ知シ

軍ハ糧秣糧以當ニセリナハ收容所ニ集結シ同様以北ニ於テハ治安駐屯ノ態勢ニ在リ、上官暴行等ノ非進行爲ハ著シク減少シ指揮組織尙然存シテアリ

軍ニ對スル強制労働復舊供與ノ指令ハ十一月一日以降發動セラレアルモ之ガ實動ハ各區區ニ依リテ一律ナラズ

目下鐵道隊ガ終取直ト同様、業ニ服シアルト陸軍病院ガ中日兩軍ノ診療ノ爲開設セシメラレアル外航空、自動車部隊ノ相當敷設定

修理業務ニ從事シアル外大部ハ動員セラレアラズ然レドモ、對居留民ニ對シテハ允万ヨリノ熱心且好意的ナル申出モ

アリ、各區ノ治安ニ於キヨ下級官中ナルヲ以テ茲二、三ヶ月後ニ於テハ具體化スベシト深慮セラル

又砲兵部隊ハ二個隊特設セラレ重砲兵團ノ爲教導隊式ニ活用セラレアリ

居留民ハ自治組織ヲ結成シ其中五割ヲ實施シツツアリ内外ヨリスル反動思想ノ宣傳教育ハ相當組織ニシテ逐次軍内ニモ派及セントスル豫問アリ

三、給 養 狀 況

糧秣ハ逐次時ニ於ケル軍兵ノ保有量ヲ報告ノ上之ヲ使用シアルモ

十月以降中國湖兵站機關ノ補給ヲ受クルノ方途開カレ消費セル地區ニ在リテハ逐次之ガ補給ヲ受クルコトト定メラレアルモ未ダ確實ナル目途ナク現状ヲ以テセバ元ヅ本年末迄ハ不安ナク喰ヒ延シ

ニ依リ明年二、三月頃迄ハ糶ヲ得ルモ爾後ニ在リテハ確實ナル補給ノ實施ナキ限り極メテ不安ナル狀況ニ在リ



兵隊 駐 留

將受兵隊ノ一任ニ取ユルニ仇ヲ以テセスノ趣旨ハ概ネ如實ニ實  
現セラレ今日迄中國ニ於ケル終戦業務ハ膠滑ニ進歩シアリテ特筆  
スベキ莫大尋常ノ發生ラズアラズ  
蘇中兩國間ニ於テハシテノ國民政府ト中共備トノ相克ハ在華軍民  
等ニ日本軍隊ニ影響スル所カラス等ニ北ニ於テハ何日々戦闘  
ニヨリ日本軍務ヲ維持スルニ至シツツアル情況ハ注視ヲ要スル所ナ  
リ

公共事業ノ設備

公共事業ノ設備ハ道路、電氣、水道、郵便等接収ラ了シ連年ハ  
概シテテ人製職員ノ福益並ハ之ニ協力シアリ  
其ノ他ノ設備等ハ年中ニ於テハ其ノ大部ノ形式的接收ヲ終了  
セシメ中斷期ニヨリ新規建設ノ開始セラレタルモノハ稀ナリ  
北支ニ於テハ漸ク復旧ノ始ニ就カントシツツアリ

九

綜合的接收ノ利ハ中國側ニ於テモ理解シアル所ナルモ實現ニ至  
ラス

一 接收ニ於テハ地政等ニ就テ各領ニ實施セラレ兼北ニ於テハ今後  
區々テ綜合的接收ニ努力スル旨諒解シアルモ實現性ニ就テハ容  
易ナラスト判断セラル

二 接收後ノ中國企業ノ大部分再開セラレアラザルヲ以テ華人失業  
者ノ生活維持ノ必要ヨリスル退職手當ノ強要トナリ舊日本側業  
者間ニ於テハ之ガ際上多大ノ困難ヲ感ジツツアリ情勢ノ趨ク所  
或ハ不幸ナル結果ヲ招來スルニ非ズヤト懸念セラレアリ

三 技術ノ協力ニ就テハ中國側ノ要求ハ相當大ナルモノアリ

現在並ニ調査セル所ニヨレバ技術者數軍民ヲ通ジ九萬人ノ中約  
九千人ハ強留ヲ希望シアルモ待遇問題ノ見透シ困難ノ爲一救ニ  
去意ニ迷ヒアリ

但シ現在並ニ中國側ニ協力シアル技術者等ノ待遇ハ規定セラレ

アルモノヨリ良好ナルモノ多シ、派遣軍トシテハ極力多數ヲ現  
地ニ保留セシムル如ク努力中ナリ

五 復員 輸送

十月下旬ニ於ケル指令ニ悉キ米價LS(一軍給)並ニ邦船派遣(居留  
兵)ニ依ル輸送ノ計畫シテLS百二十隻ニ依リ全軍隊ハ七ヶ月

ヲ以テ送完了シ得ル如ク慮セラレアリ  
然レドモ是地ニ船地シアル軍兵ノ乘船地帯ノ集中行軍ニ長時日ヲ  
要スルヲ以テ此ノ結局ツテ輸送ノ形成スルニ非ザルヤヲ懸念セラ  
ルモノナリ

此際LSノ使用許容ノ限界在ニ伴フ邦船派遣ノ具体的計畫ノ指示ハ  
右集中行軍並米價ノ規正スル爲元決スベキ前提ナリト懸念セラ  
ル  
六「在支日本軍人、軍需、在留邦人地帯別人員一覽」並ニ「同集結  
兼送隊概況」一冊又其一、其二、如シ

屬表一

在支日本軍人軍屬在留邦人 地別一覽表 十月末

地別	軍人	軍屬	在留邦人	合計
山	八、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇
東	七、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	九、〇〇〇
計	七、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	九、〇〇〇
徐	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇
南	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
上	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
安	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
凡	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
武	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
湖	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
廣	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
香	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
仙	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
厦	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
雷	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
海	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
臺	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
佛	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
合	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇

臺灣救護兵站病院 收容者ノミトス

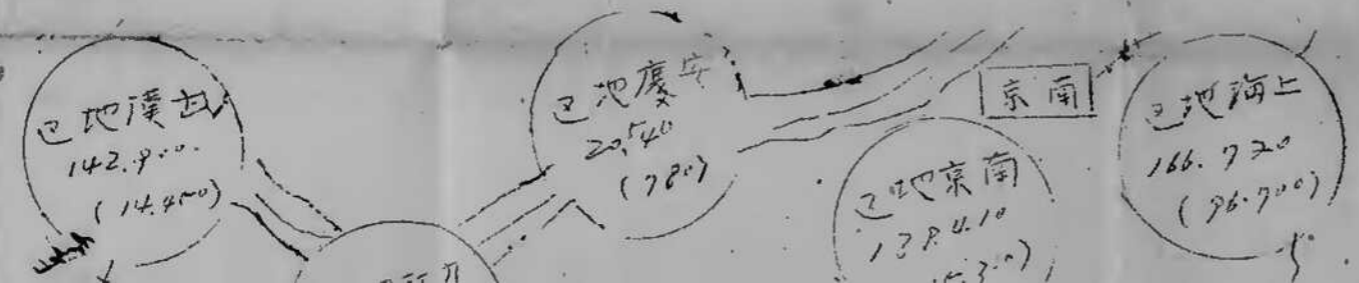
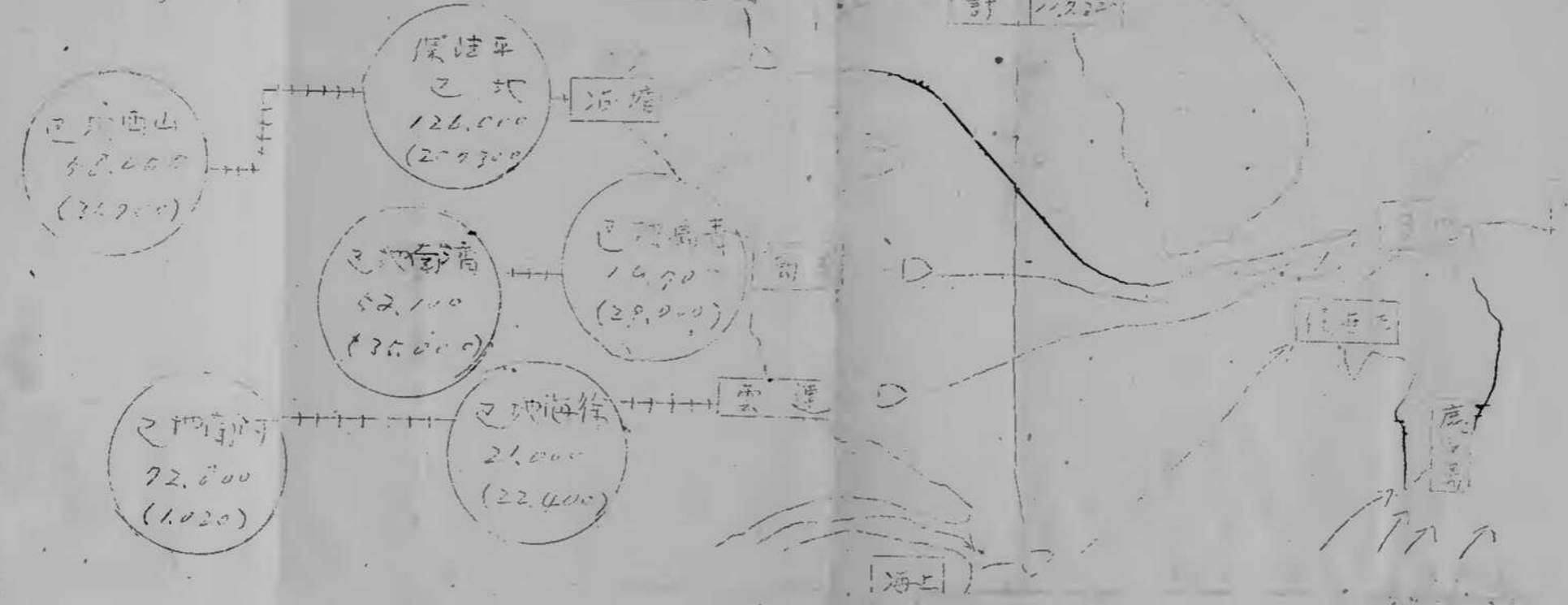
日 本 郵 政 省 郵 政 局 郵 政 貯 蓄 課 貯 蓄 課 長 官 官 署

貯 蓄 課 長 官 官 署

屬 表 其 一

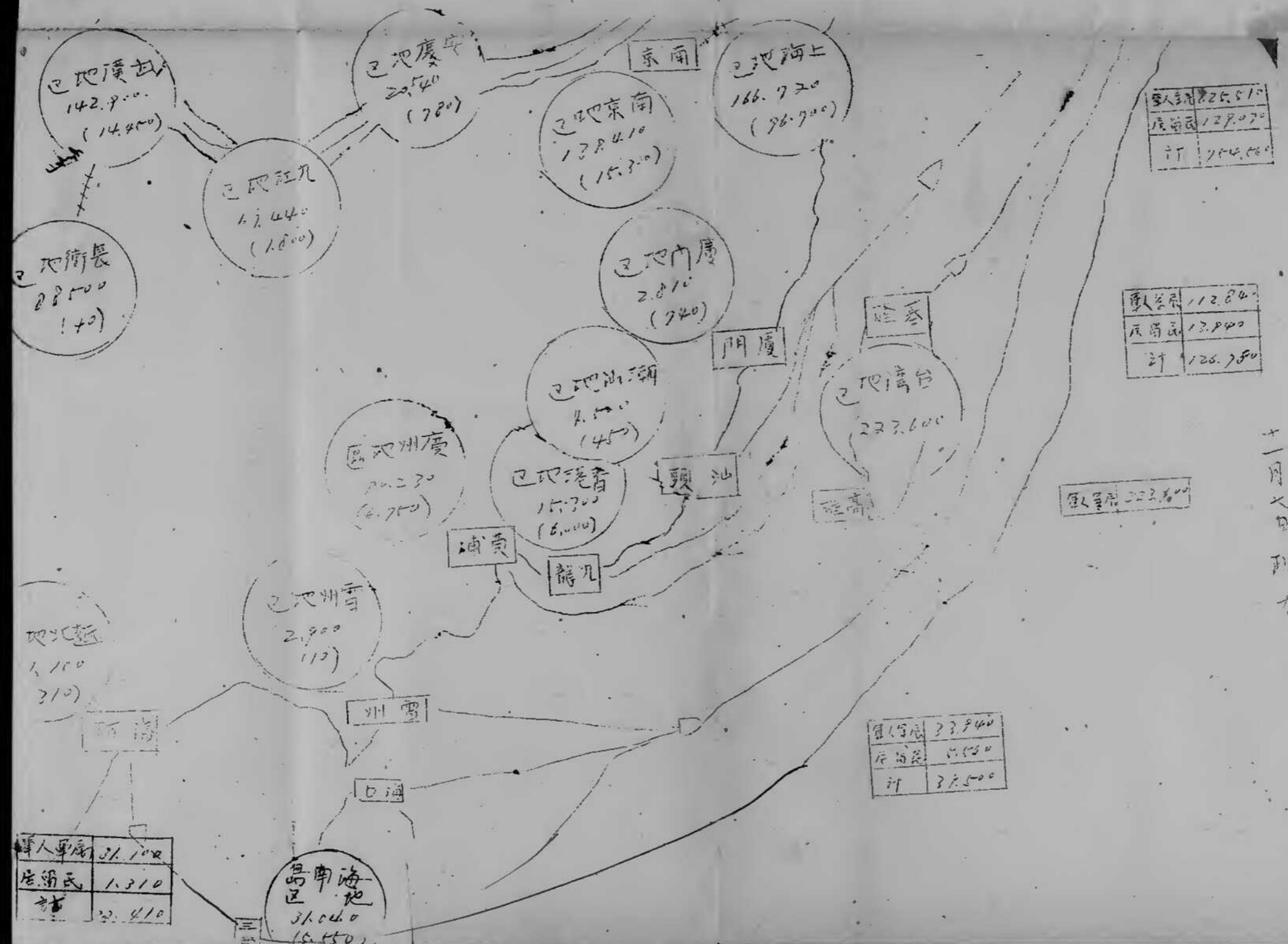
註  
 一、各 種 貯 蓄 貯 蓄 課  
 二、各 種 貯 蓄 貯 蓄 課  
 三、各 種 貯 蓄 貯 蓄 課  
 四、各 種 貯 蓄 貯 蓄 課  
 五、各 種 貯 蓄 貯 蓄 課  
 六、各 種 貯 蓄 貯 蓄 課  
 七、各 種 貯 蓄 貯 蓄 課  
 八、各 種 貯 蓄 貯 蓄 課  
 九、各 種 貯 蓄 貯 蓄 課  
 十、各 種 貯 蓄 貯 蓄 課

貯 蓄 課	1,200
貯 蓄 課	2,340
計	1,220



貯 蓄 課	26,510
貯 蓄 課	12,070
計	75,480

已收... 72,800 (1,020)  
 已收... 21,000 (22,400)



十一月七日

裏面白紙

其二 軍ノ接收並ニ武裝解除

一 包綫地區

九月二十四日包頭ニ於テ降伏調印式ヲ奉行セラレ二十六日兵器引渡ヲ開始シ二十七日之ヲ完了セリ爾後在包頭部隊ハ二梯團ニ分レ第一梯團ハ十月五日包頭發六日大同着第二梯團ハ六日包頭發七三大同着全員集結ヲ完了セリ在包頭ノ居留兵ノ大部ハ之ヨリ先十月二日大同ニ集結シアリ

二 平津保地區

(1) 天津地區  
九月三十日中水師長ノ協定ニ基キ米津軍及海兵隊ハ塘沽、上院ヲ開始シ天津(第一海兵師團ノ1st及3rd)塘沽、唐山、林西ニ夫々一部進駐セリ我が第一一八師團(天津)ハ十月一日以來米津軍ト警備交代ヲ實施シツツアリシガ十月四日十五時天津米津軍司令官ヨリ投降ニ同意スル命令ヲ受領シ十月

六日九時降伏調印式ヲ奉行シ中國軍米着ノ爲米津ニ於テ接收ヲ開始シ鐵道及飛行場警備ノ任ヲ續行スル部隊ヲ除キ十月十一日武裝解除ヲ完了セリ

中國側接收部隊タル第九十四軍ハ十月二十一ニ天津ニ進駐セルモ匪軍ハ都市周邊ヲ圍繞シ鐵道發達都市擾亂依然活潑アリ天津市内ニ於テハ十月甲夜以降一部中國人ニ依ル不法事件發生セルモ目下悉次平靜化シアリ

(2) 北京地區

十月七日平津地區受降三官孫廷仲長官ニ對シ降伏調印セリ北京地區受降三官九十二軍長官侯鏡如ハ十月十八日北京ニ到着十月二十日ヲ以テ城内ノ警備ヲ交代シ軍ハ北京方面軍司令部又必要最少兵隊ノ人員ヲ城内ニ殘置シ大部ハ十一月一日以降城外ニ集結シアリ居留民ハ十月二十二日以降西郊ニ集結

三 濟南地區

九月、六日受降三軍第一戰區司令官李延年將軍ノ副官張所  
濟南着十月八日奉送年將軍張勳ニ到着セルモ、下匪軍ノ跳梁活  
演ニシテ接收ハ幸急ナル進歩ヲ望ミ難ク軍ハ依然ニ要領青島山  
ノ石條鐵道ノ保護等ニ任シテソノ責任ヲ負フノ戰死傷者ヲ生ジアリ

四 青島地區

九月十六日米艦第二隻入港シ本第七支隊司令官「フベール」  
中將ヨリ日本海軍接收ニ關スル要領アリ十月六日中國獨立會ノ  
上米艦ヨリ日本海軍ハ青島港街地ヨリ青島東側地ニ移轉シ  
命ゼラル十月十六日獨立會第五旅團長「青島」ハ米艦司令官ニ  
招致セラレ中國獨立會ノ下ニ該地ヲ受領シ十月二十五日正午降  
伏調印式ヲ舉行ス

五 山西地區

八月十八日受降三自衛隊山西將軍部ハ大原介休ニ夫々進駐シ一

部鐵道警備ニ任ジアル部隊ニ除キ他ニ九月中旬武裝解除ヲ完了  
セルモ依然警備態勢ヲ保リアリテ特ニ大同方面ハ匪情緊迫化シ  
第四獨立警備隊三万ハ中國等ト共ニ其ノ確保ニ任ジアリ

六 新鄉開封地區

九月二十二日鄭州ニ於テ降伏調印式舉行後二十三日ヨリ武裝解  
除ヲ開始シ第十獨立警備隊ハ十月六日之ヲ完了シ爾後ノ部隊亦  
逐次警備ヲ移讓集結シアリ

七 鄭城地區

九月二十日鄭城ニ於テ降伏調印式舉行セラレ第百十五師團第十  
三獨立警備隊ハ十月九日獨立派隊第九十二旅團ハ十月六日夫々  
武裝解除ヲ完了所定集結地ニ集中セリ

八 徐海安徵地區

九月二十四日蚌埠ニ於テ降伏調印式舉行セラレ二十八日以降逐  
次左ノ如ク武裝解除ヲ實施セリ

ノ第七十師團ハ九月三十日第一獨立警備隊ハ十月五日夫々武装解除ヲ完了シテ下關鎮附近及蘇縣附近ニ集結中

二第百三十一師團ハ安慶ニ於テ十月下旬現在武装解除中

三獨立歩兵第六旅團ハ大通ニ集結シ十月下旬現在武装解除ヲ待

候中ノ

四第六十三師團ハ十月下旬海州地ニテ武装解除ヲ完了

五陸兵第四旅團ハ十月二十七日以達青島ニ移駐中ニ集結中ナ

九京滬地区

ノ上海地区

九月十一日三師ニ於テ降伏調停式ヲ舉行十四日以降逐次武装解除ヲ開始シ第二十七師團（蘇州）獨立混成第九十旅團（揚州）ヲ除テ十月下旬第三軍各部隊ハ武装解除ヲ完了セリ又海軍總ノ警備ハ十月一日ヨリ以テ交代セリ

二南京地区ハ三十日師團（浦口）三万第一〇師團（蕪湖）及

中野勳命令ニ依リ特備ニ任シアル第三師團（蕪湖）ヲ除キ十

月上旬武装解除ヲ完了シ夫々城外ニ集結シアリ支那派遣軍總

司令部ハ所要ノ人員ヲ配置シ十一月末頃迄ニ城外ニ移駐ノ豫

定ナリ居留民ハ下關集中營（營場）山日本軍兵站宿舎ニ集

中ニ活ヲ實施中ナリ

一〇杭州廈門地区

九月十三日第三艦隊司令部（主任 杉山元中将）杭州ニ推進後  
接收順調ニ進捗シ各部隊ハ概シテ十月下旬武装解除ヲ完了セリ

一一、南滿地区

九月一日第九戰區司令部（主任 吉澤廉所主任 第五十八軍長 魯道源將軍）  
我方方トノ間ニ於テ協定締結セラレ同日ヨリ南滿地区、十九日ヨ  
リ九江地区ノ武装解除開始セラレ轉運部隊ノ集結ニ伴ヒ逐次武装  
ヲ解除シ十月十九日其ノ全部ヲ終了シ十月二十五日集結ヲ完了セ  
リ



同十月一日南昌ニ於テ受降主官薛岳將軍ト笠原中將ト會見セリ

一三、武漢地區

九月十八日漢口ニ於テ降伏調印式進行セラル  
九月十五日武漢地區總受降官中將第十集團軍司令官王敬久將軍ハ司令部及其ノ所屬部隊ト共ニ武漢地區ニ進駐シ同時ニ接收開始セラレ十月十四日其ノ全部ノ武裝解除ヲ完了セリ向漢口地區ニ於テハ十月上旬ニ旦リ米軍ノ強奪事件相當數發生セリ

一三、長甯地區

九月十五日降伏調印式舉行セラレ九月二十一日武裝解除開始十月十八日其ノ全部ヲ終了セリ  
九月十三日第七戰區前進指揮所（主任副司令徐景翼中將）汕頭ニ設置セラレ二十八日我方方投降主官田中中將ハ參謀長富田少將ヲ代表セシメ汕頭ニ於テ受降主官宗源誠將軍ノ命令ヲ受領セリ

汕頭支隊ハ一部勤務員ヲ殘留シ十月三日連江島覺石地區ニ集結セリ、惠州地區ハ九月二十三日第七戰區惠州受降官蔣培中將ノ前進指揮所（主任參謀長曹誠中將）惠州ニ到着シ第四百師團ハ十月二十五日其ノ主力ノ武裝解除ヲ完了シ各處據化團體區ニ集結完了、十一月三日後余高橋ノ解除ヲ終了ノ旨尙中國側ノ要求ニ基キ兵團司令部、病院等ハ依然惠州ニ殘留ノ決定

一四、廣州、雷州地區

八、廣州地區

九月十六日降伏調印式舉行セラレ十月二十日其ノ主力ノ武裝解除ヲ終了シ全員集結態勢ニ在リ

2、雷州半島、海南島地區

九月二十一日我方雷州支隊長ハ中國側赤坎總指揮部ニ於テ受降官鄧蔭光將軍ト正式會見ヲ實施シ爾後雷州半島ニ於ケル軍需品ノ移讓整備交代、武裝解除等全テ順調ニ進捗シ十月三日

以テ了セリ

雷州支隊主力（獨歩第二百四十八大隊基幹）ハ九月三十日鋪子墟附近（西宮西南方十八村）ニ集結ヲ完了シ居留民モ亦同一地ニ集結シアリ

海南島地區ハ十月五日粵桂南區總指揮部海南島前進指揮部海口ニ到着郊外ニ前進指揮所開設後接收願調ニ進歩中ナリ

一六 香港地區

八月三十日英艦隊香港ニ入港シ一部ノ兵力ヲ以テ九龍ニ進駐、九月十六日中國代表羅卓英中將米田代表「ウイリアムソン」大佐立會ノ下ニ英艦隊「ハーコート」少將ニヨリ投降式舉行セラレ英軍進駐ニ伴フ接收業務ハ英側獨自ノ計畫ニ基キ強行セラレ在香港全日本八（華人軍屬ヲ含ム）ハ九月一日中ニ九龍ニ移轉シ次デ九月六日九龍市街地區ノ接收並ニ武裝解除ヲ終了セリ當初相互ノ連絡不圓滑ナル爲誤解ニ基ク若干ノ不詳事件ヲ生起

セルモ遂次好轉セリ

九月二十五日十二時ヲ以テ英艦隊ノ要求ニ依リ廣東―香港ノ無線通信中止ノ止ムナキニ至リ其ノ後ノ狀況詳細不明ナリ

一七 越北地區

九月二十八日河内ニ於テ降伏調印式舉行セラレ接收業務ハ中國軍第一方面軍ノ極メテ理解アル態度ニヨリ圓滿ニ進歩中ニシテ河内ハ十月五日海防ハ六日夫々接收ヲ完了近ク海防ニ集結完了ノ見込ナリ

一八 臺灣地區

九月二十日中國國民政府ハ臺灣省行政長官公署組織條例ヲ制定公布セリ十月五日中國國民政府臺灣省督備司令部兼行政長官公署前進指揮所主任高敏忠中將臺北著十月六日ヨリ職務ヲ開始シ十月十七日先遣部隊中總掌櫃ニテ基隆ニ入港十月二十四日臺灣省行政長官兼督備總司令陳儀上將空路臺北著十月二十五日臺灣地區

并ハ該印本行セラル、按テ其北近ヲ初メトシ十一月一日ヨ  
リ開始セマシ、其長官以下ノ好意ニヨリ、滑ニ進歩ナラモ、物  
價高騰ニ伴ヒ、其支那ニ急化シアリ

裏面白紙

其二 軍ノ給養状況

一、概 旨

給養但依ニ於ケル各部隊ノ給養ハ主食及副食品ニ在リテハ部隊保  
有品ニ依存シ生鮮品ニ就テハ諸備糧銀券發額及自活上不要不急保  
有品ニ依リ獲得セリ

而シテ兵ノ給養程度ハ冠道ノ困難ニ依リ食ヒ延シ保存ニ努メ自ラ  
相當減量ヘルノ已ムヲ得サル状況ニ在リタリ

十月以降日本軍ノ給養ハ中國備ニ於テ責任ヲ以テ實施セラレル事  
トナリ程度ハ各受年主管ニ於テ兵站司令部ヲ指定シ向司令部内  
負機體ニ對シ軍政部ヨリ代金ヲ交付シ該機關ヲシテ調辨ノ上現品  
ヲ以テ日本官兵ニ支給スルコトナレリ

然レドモ兵ノ實施ハ武裝勝後ノ部隊ノミニ限定セラレ且保有糧  
食ノ旨無トナリタル品種ニ制限セラレアリ  
主副食定量ハ中國官兵ト向係ノ待遇ニ依ル如ク定メラレ食習慣具

一ル

池ヲ廢越シ日本官兵ニ適應スル如ク軍政部指定ノ副食代金ノ範圍  
内ニ於テ適宜變更處置シ得ル如ク指示セラレアリ

主食ノ給養ハ日下大部ノ部隊ハ保有糧食ニ依リ蒸餾及精製米ノ一  
部隊ノミ中國備ノ補助ヲ受ケアリ

定量ハ大米二五市兩(七八一、二五瓦)ト定メラレアルモ自己保  
有糧秣ニ依リアル部隊ハ二〇〇瓦乃至五〇〇瓦ニ數量シ實施シテ

リ即チ中國備ノ米販賣ハ示ダ運送セサル爲各部隊共食ヒ延シノ指  
揮ヲ採リツツアルモ午後全道的ニ中國ニ依存セザルヲ得サル境況

ナリ

管ニ今朝ニ於ケル米ノ出廻期ヲ迎ヘ又日軍保有糧食ノ現況ニ鑑ミ  
主食ノ補助ニ付中國備ト折衝中ナルモ中國備ノ採購組織ハ逐區毎

ニ異リ且各地間ノ融通ハ著シク困難ニシテハ就中甲集團地區ノ精  
米ハ真ニ憂慮ニ堪ヘズ)給局全面的ニ麥雜穀ニ依ルノ外ナキモノ  
ト觀察セフル

中國側ニ依ル副食ノ支給ハ既述ノ如ク原則トシテ現物支給ナルモ  
中國側購買機關ノ整備セフレサル地區ハ代金支給ヲ受ケ日本側ニ  
於テ購買シアリ

副食代金ハ概ネ一人月額法幣二、四〇〇元ヲ軍政部ノ標準トナシ  
各受降主官ノ切實ニ審ク申請ニ依リ之ヲ増減シアリ

副食ノ現物補給ヲ開始サレアルハ概ネ野菜、肉類ノミニシテ野菜  
ハ出盛ノ品種ニ偏リ易ク又肉類ハ鹽漬品等トノ換算量確定シアラ  
サル爲數額ヲ著ルシク減セフレアル現況ナルモ中日兩省ノ憤熱疎  
通ニ依リ逐次良好ニ赴クモノト期待シアリ

味噌醬油ノ補給ニ關シテハ既述申請ノ結果之ヲ容認セラレ地區ニ  
依リテハ中國側ニ於テ製造ヲ開始シ又一應接收セラレタルモノノ  
補給ヲ實施セラレアルモ地區ニ依リテハ之ガ未ダ認めラレサルモ  
ノアリ

之ヲ要スルニ給養ニ關スル全般的中國側トノ接衝ハ總連絡部ニ於

テ統轄實施シアルモ各地區ノ現狀ハ地區ニ依リ若干ノ差異アリ  
給與定額及ビ各地區精米保存量(推定)一覽表(第一、第二ノ  
如シ)

表第一

定 重 比 價 表

品 目	中國官兵	同上 稔算 重	申請 日本官兵	日本 裁本 裁重
主 食	一石 卅	六石 五 免		二石 卅 免
副 食	九石 卅	二八 二 五 卅	一石 免	九石 免
肉	五 卅	一五 六 二 五 卅	(可漬 物 卅 五 免)	五 卅 免
蔬 菜	一石 卅	三二 二 五 卅	七石 卅 免	一石 卅 免
生 油			〇石 六 立	六石 九 〇 免
生 味			六石 免	七石 五 免
茶 砂			三石 免	二石 免
茶 葉			三石 免	三石 免
薪 材			一石 卅 免	一石 卅 免
薪 材			一石 卅 免	一石 卅 免

兵部 兵備 兵費

各地 兵備 兵費 日数表

軍分	兵備	兵費	日数	備考
第一軍	一〇一	一三三	一三三	
第二軍	一〇一	一三三	一三三	
第三軍	一〇一	一三三	一三三	
第四軍	一〇一	一三三	一三三	
第五軍	一〇一	一三三	一三三	
第六軍	一〇一	一三三	一三三	
第七軍	一〇一	一三三	一三三	
第八軍	一〇一	一三三	一三三	
第九軍	一〇一	一三三	一三三	
第十軍	一〇一	一三三	一三三	
第十一軍	一〇一	一三三	一三三	
第十二軍	一〇一	一三三	一三三	
第十三軍	一〇一	一三三	一三三	
第十四軍	一〇一	一三三	一三三	
第十五軍	一〇一	一三三	一三三	
第十六軍	一〇一	一三三	一三三	
第十七軍	一〇一	一三三	一三三	
第十八軍	一〇一	一三三	一三三	
第十九軍	一〇一	一三三	一三三	
第二十軍	一〇一	一三三	一三三	

兵備 考

一 第二十軍 状況ニ就テ八月下旬調査中  
 二 第十三軍 兵船裝甲ノ海軍第六方面軍(兵額總計三五萬)假定ス  
 又第六軍ノ兵一自分ヲ別格スルセトシテ計算セリ  
 三 一人一日所要馬六、橋本五、トシテ不足ハ精麥ヲ以テ充ツ  
 四 消費月日ハ保育高一切ヲ消費スル月日ナルヲ以テ軍内ノ部隊地區間ノ偏在ニ依リ一般ニ更ニ早期ニ消費スルキモノト

三名北區の食糧状況

南京地區

主食ハ各兵團部隊共自隊保有品ニ依リ給養シアリテ概ネ支障ナ  
 キ状況ナルモ統集團地區ヨリ移動シ來レル兵團等ハ其ノ保有食  
 料ヲ出デサルモノアリ  
 副食ニ關シテハ當初新編第六軍内ニ日本側ヨリ所要人員參加シ  
 一日本官兵給養採購組ニテ設置シ副食品ノ補給ヲ擔當シ南京城  
 内部隊ニ在リテハ採購組ヨリ直接城外部隊ハ總鎮長ヨリ夫々現  
 物ヲ供給シアリタルモノ十一月以降第三兵站司令部駐京辦事處ノ  
 擔任ニ變更セラル  
 民間味噌醬油工場ハ終戰後保業ヲ中止シアリテ味噌ニ關シテハ

買込廠倉庫内ニテ日産三〇噸ヲ以テ生産ヲ執行シアリタルモ其  
 後軍政部系統味噌醬油工廠長ノ下ニ一切ヲ統合シ舊恒和醸造廠  
 一工場ノ設備ヲ利用シ日人技術者ヲ入レ月産目標味噌百噸醬油  
 十六立入四、〇〇〇樽ノ下ニ生産ヲ開始スルノ域ニ在リ

上海地區

各兵團部隊ハ隊ノ補給アリタル處ニヨリ主食調味品等概ネ平均  
 三ヶ月分ハ保有シアリ唯上海地區ヘノ部隊患者等集中ノ爲ノ所  
 要糧秣ハ既ニ按収済ノ買込廠保有糧秣中ヨリ補給スル如ク目下  
 湯司令部ニ申請中ナリ  
 副食ニ關シテハ當初各地區ニ於テ既交付ノ前渡資金ニ依リ適宜  
 調辨シアリタルモノ十月以降上海地區ニ於テハ一人一日國幣八〇  
 元ノ額ニテ兵站司令部ヨリ代金受領シアリタル處十月下半期ヨ  
 リ現物補給ニ改メラル  
 副食定量ハ未ダ中國官兵ト同定量ヲ維持セザレアル爲給養上多



大ノ困難ヲ感ジアリ

軍ノ保有シタル冷凍魚冷凍肉鹽干魚等約二、六〇〇應ノ使用ニ就テハ既ニ中國側ノ諒解ヲ待目下各部隊ニ逐次補給中ナリ醬油ノ製造ニ就テハ原則的ニハ軍政部ノ諒解ヲ得アルキ木ダ具待的ニ着手シアラズ味噌ニ就テハ上海ニ於テ民間醸造工場ニ在ル現任仕人中ノ六百應ニ就キ撥出認可セラレアリ炊事用燃料ハ副食中ニ包含セラレアルモ之ガ確保ハ感メテ困難ナル狀況ナリ

### 3. 武漢地區

各兵團部隊ノ保有糧食ノ大部分ハ接收ヲ免カレ現在我方ノ給養ニ充當使用中ナリ  
中國側ヨリノ補給ハ取近漸ク裕ニ就キタル狀況ニシテ王實及調味料ノ現物補給ハ未ダ開始セラレザルモ副食代金ハ十月初旬ヨリ各部隊兵交付ヲ受ケツツアリ  
副食代金ハ一八一〇圓幣一〇〇元ナルモ諸物價昂騰ト品薄ノ爲

日下若干ノ不足ヲ感シアル狀況ナリ

味噌醬油ノ補給ハ逐次ニ且リ交渉セルモ中國側應請セサル爲主食定量ノ一部ヲ以テ自營ヲ計畫中ナリ(武漢地區ノ味噌醬油ノ補給承認方ニ付總連部ヨリ中國側ニ申請中ナリ)

呂漢集團地區ノ狀況ハ詳ナフサルモ概テ統(武漢)地區ト同様に隊想シアリ

### 4. 廣東地區

各部隊ノ糧食保有狀況ハ王實ノ支持日數約四〇日十一月末迄ニシテ保有糧食ヲ充當シ給養ニハ裕ク不支障ナシ

副食ハ十月以降中國側ヨリ現札ヲ受領(當初一人一日圓幣百元ナリ)シモ現在ハ八十元ナリ(各集中營等ニ日本幣ニ於テ調辦ヲ實施シアルモ野菜等ノ設備不十分ニシテ現在現想目活ノ強化ニ努メアリ

調味料ハ之ガ保有極少ナルニ付中國側ノ諒解ヲ待舊貨物廠製造

工場ヲ操業シ味噌醬油ヲ製造シ現正月味噌一五〇應醬油一二〇計ニシテ概々廣東地區ノ需要ヲ充足シアリ

汕頭地區ハ各部隊主謀及調味品一ヶ月ヲ保有副食物ハ十月一日以降一八二付一ヶ月四千元へ大洋ヲ借入部隊ニ於テ調辨シアリ目下經理關係一切ニ斷スル同情的措置ヲ受ケ憂慮スベキ點ナシ雲州地區ハ十月五日以今吳桂南部總指揮部ヨリ給養ヲ受ケ食物代ハ法幣ヲ以テ交領ノ隊定

廈門地區ハ現有糧食ハ支持日數ハ十一月末迄ニシテ又物價昂騰ニ依リ給養ハ急遽ヲ受ケアリ給養確保方總連絡部ヨリ中國側ニ申請ス

香港地區ハ通信社絶々為状況不明ナルモ全般的ニ給養ヲ受ケ勞役ニ服シアルモノノ如シ

5. 新瀾開封地區  
十月十日以降中國側ノ指示定置ニ依リ給養ヲ實施シアルモ右指

示定置ノ外餘糧積蓄等日本軍所有ノ糧食ハ保有量ニ依リ從來通ノ定置ニ依リ保有量ニ應ジ給養シアリ糖足糧食、燃料等ハ十月一日ヨリ借入法幣ヲ以テ定置ニ基キ調辨シアリ

蘇州地區ハ十月十三日以降第五戰區兵站總司令部ヨリ許昌地區ハ十月十一日以降第二集團兵站分司令部ヨリ糧食ノ支給サレアリ

6. 平洋地區  
糧食給與ニ就テハ軍械子第指點ニ依ル調辨機關ノ交付時期交付要領等ニ關シ前送指揮所ニ對シ照會中ナルモ未ダ具體的ナル指示ナク補給調辨等ハ從來ノ要領ニ依リ實施シアリ

給與定置及補給材料ハ各戰區ノ定置同様に基奉トシ實施シアルモ主食使用定置内ニテ目下精米三〇〇瓦雜穀三〇〇瓦ニ節約シアリ  
味噌醬油工場ハ一部營業停止等ノ關係ニ依リ操業ヲ中止シタルモ概ネ從來ノ要領ニ依リ運営シアリ

		現在生産シアル工場及生産数量ノ如シ	
味噌工場	天津	二月	五〇〇
	北系	二月	一〇〇
	石門	二月	二〇〇
	天津	二月	二五〇
香油工場	北系	二月	一五〇
	石門	二月	二〇〇
	天津	二月	二〇〇

其四 在日邦人ノ動靜

一、要旨

終戦時ニ於ケル一般在日邦人ハ帝國ノ前途ヲ憂ヒ自己ノ將來ヲ思ヒ一時茫然自失ノ状態ニ在リ得ニ内地状況ノ不明及中國制ノ取扱未タ確定ノラザリシ爲メナル原因ヲ生ジタルモ目下漸次平靜ヲ恢復スルニ至リ故チ各在日邦人其中國留ノ命ニ依リ順調ニ集中生活ニ移行シテアリ。一、部中留日ヨリノ移住ニ依リ引續キ内地ニ移住スベキ者及持産ノ一部移住者ヲ除キ全在日邦人内地留日ヲ希望行儀シテ

終戦直後蒙テ在日邦人約二七、〇〇〇人ハ「ソ」軍ノ不法侵入ト共ニ殆ド無一割ニテ京津地區ニ引揚ガ收容セラレタルト、山海關方面ノ邦人約五〇〇名ノ拉致トヲ除キ餘他ノ地區ニ於テハ中韓人、日人間ノ交渉就チ不平等ニ推移セリ。終戦時ヨリ集中生活ニ移行ノ間ニ於テハ一部ノ地區ヲ除キ邦人ニ

對スル不法行為等給ソドナク日常生活モ亦概チ順調ニ行ハレアリタルモ集中生活移行ニ伴ヒ手持食糧並ニ資金逐次缺乏之シ各地區共ニ急遽用給給ノ配給見込盡ト共ニ食糧及資金問題ハ居留民ノ主要關心事トナリアリ

二、各地區集中状況

九月十三日滿中政府軍中回國軍司令部訓令發字第三號(附錄第一) 三、參照ノ九月三十日滿中政府軍司令部訓令發字第二十一號(附錄第四) 參照一發令ニ依リ在日邦人居留民ノ地位ニ關シ明示セラレル所トナリ各地區共ニ集中生活ニ移行セリ。茲ニ狀況簡表第一、二ノ如シ。集中生活ニ移行ハ各在日邦人ニ於ケル受給主管ノ理解アル態度ニ依リ概チ順調ニ進ミタルモ急遽用給給ノ不足ト居留民側ニ於ケル歸還用船船配給見込ニ對スル急迫的調測トニ依リ手持物資ノ投入充分ナラズ各地區共ニ三ヶ月分ノ食糧ヲ移行シタルモ概チ十一月末乃至十二月中有頃迄ニハ消費シ盡スラ以テ特ニ物價暫應(備

備兵ノ要領ニテ兵食ノ調ク不足スルニ及ビ食糧並ニ資金ノ問題ハ  
居留民ニ關スル主要問題ヲ形成シアリ

集中營及集中地獄ハ各地區共凶險ナル實狀ニ在ルト共ニ設備特ニ  
越冬準備不充ナルモ遂次整備セラレ本年越冬ニハ概ネ支障ナシ  
終戦ト共ニ現地大東亞省機關ノ機能停止セララルニ至リ所謂舊勢  
力ニ對スル部ノ反逆遂次起リ各集中地域内ニ於ケル自治的治安  
維持ニ多大ノ支障ヲ來シアリテ特ニ終戦後ニ於ケル道義ノ凋落ト  
相俟チ憂慮スベキ状況ヲ現山シアリ

### 三、現地除隊者ノ動向

現地除隊者中現地編入ニ非サル者ハ其ノ大部分慢然ト中國殘留ヲ  
希望シ特別ノ見返シ無ク除隊セシ爲被服、食糧、資金共ニ窮シ目  
下一般居留民ニ寄生シアル者多ク道義ノ凋落ト共ニ一問題ヲ形成  
シアリ

### 四、衛生狀況

西藥藥品ハ近ク各地區共不足ヲ生ズル見込シニシテ消毒施設不備  
ト共ニ憂慮セラレアリ、但シ現在ノ衛生狀況トシテハ特ニ憂慮ス  
ベキモノナシ

### 五、思想動向

一般動向トシテハ特ニ皇國ノ前途ヲ憂ヒアルモ總固タル見込附カ  
ザル爲特別ノ動キヲ見ズ只從來ノ趨勢ヲ打倒、民權擁護ヲ唱ヘア  
ル者アリテ特ニ現地ニ於ケル舊大東亞省機關ニ對スル反感ハ一般  
的傾向トナリアル地區多ク特ニ漢口、南京ニ於テハ表面化シアリ  
右ニ乘ジ舊左翼系分子漸ク其ノ活動ヲ現ハシアリテ食糧難、資金  
難、奮勢力打倒思想等ヲ利用シ逐次其ノ活動ヲ活潑化スベク將來  
憂慮スベキ問題トナル事必至ナリト観測セラル但シ特ニ中國共產  
黨トノ關係等ハ見ラレズ一般居留民ノ態度ハ未ダ冷淡警戒的ナリ  
現地軍ニ對スル反感ハ未ダ表面化スルニ至ラズ將來ニ於テハ一部  
運動ヲ豫期セラル

所謂軍國ニ對スル及感ハ一般のナリ、中國制ニ對シテハ其ノ姓  
アル叔彼ノ感謝スルト共ニ從來ニ於ケル帝國ノ對支政策及其ノ實  
行將ニ帝國ノ大政策ニ對スル批判反省ヲナス者アルモ未ダ皆個  
的ナラス

三

裏面白紙

各地居留民集中状況一覽表

昭和二十年十一月七日  
支 總

地区	状況	況	人	備考
唐山	唐山以北ノ居留民、概テ唐山ニ引揚ケタリ		5/10	
塘沽	塘沽居留民ハ一部技術関係者男子約一千名ヲ残置シ其ノ他(約三〇〇〇名)ハ主トシテ天津ニ移動シ		26/7	
天津	家産張家口方面ヨリ京津地ニ引揚人員約二七〇〇名ナリ		25/7	其ノ大部分、磁石ト燕一物ナル状況ナリ
保定	保定方面居留民約九〇〇名ハ部隊ト共ニ三次ニ亙リ燕華大同ニ集結シ大同ニ於テ越冬ヲ準備セリ		20/10	
大同	同下保北駐營ト共ニ大同市内ニ在ル居留民ハ約二〇〇〇名ニシテ八路軍約一萬ニ北及西ヨリ包圍セラルル態勢ニテテ安全否ハ相當憂慮セルル		24/10	
北平	北平西郊置臺、石景山長辛店方面ニ在る居留民約十萬人下リテ張家口及一部山西方面ヨリ引揚邦人ヲ收容シタリ		15/10	
北京	北京市内ニ於テハ十月二日ヨリ開始シ西城方面居住ノ邦人ヲ西郊方面移動セシメ、十一月末迄ニ家産ヲ準備シ城外ニ移動セシメ十一月下旬迄ニ定ナルモ京屋庫		24/10	
青島	青島居留民ニ於テハ十一月十日ヨリ開始シ、都合ニ依リ得タルモノハ東城方面ニ於テ越冬セシムルヲ定メナリ		20/9	
新郷	新郷鄭州地区、邦人約一〇〇〇名ハ臨海線ニ依リ徐州方面經中濟南向引揚ケ、鐵道通信等關係者約一〇〇〇名ヲ殘留シタリ		24/10	

軍民共ニ米軍進駐ト共ニ市外引揚ヲ集結スル意ニシテ収容計治共ニ憂慮セラレ大況ニ在リ

<p>新 鄭州地区に捕入約百名ハ聯海線ニ依リ徐州方面經由濟南向引揚々鉄道通信等關係者約一〇〇名残留シテリ</p>	<p>徐州在留邦人約百名ニテ已ニ集納中ニシテ収容困難ヲ来シソノテソタル所河同方面ヨリ引二邦人約一〇〇名ハ鉄道不通ノ為路河ニテ目下海州地区ノ移動ヲ待期シテリ</p>	<p>上海市内ニ於テハ在留民約十萬餘將集納中ニシテ指定セラレ同地区内ニ於テ制限時間内ノ行動ヲ許可セラレ中國人ト雜居シ居シテノ集中營ニ管理委員長王光護任命セラレテ其ノ統制下ニ自活ヲ許可セシメテリ</p>	<p>杭州地區在留邦人ハ部隊ニ集結引揚ト共ニ嘉興方面ニ集中シタルモノ如シ</p>	<p>十月八日旧兵站通過部隊中門内外宿舎ニ約一萬一千名集結終了</p>	<p>漢口漢陽武昌孝感信陽應山廣城荆門當陽宜昌天門沙市岳州長沙方面在留邦人及廣東汕頭方面ヨリ引揚邦人ハ旧日本租界隣接旧海軍運動場美孚石油會社倉庫及軍乙号丁号宿舎ニ集結シテリ 疊々面積一人當口五坪ナリ</p>
<p>26/20</p>	<p>1/1</p>	<p>30/9</p>	<p>5/10</p>	<p>10/10</p>	<p>4/11</p>
<p>河南地區引揚邦人甲乙〇〇名ハ臨城進前進ニ更ニ引送シタル者ニシテ會社區等相當不足</p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p>漢口以て以外ノ引揚邦人ハ冬季被服種々テ不充分ナリ</p>

九 南昌地區引揚居留民ト共ニ約一八〇名集結完了シ安全ニ保護セラレテリ

江 別々大治方面ニ約一八〇名集中シテ之狀況不明ナリ



考 備	北 越	南		華 東		江	九
		雲南	廣 門	廣 東	東 廣		
日昨ハ報告ヲ受ケタル目時トス	在留邦人約一三〇人ハ各地ニ集 由生活ヲ晉航申ナリ 隻結地ハ「ハイ」ヲインシテ オンビクタイジコフエナリ	居留民一部ハ西營田ニ引取所ニ 集結シテハ軍ト共ニ舗子控所ニ在リ	概テ慶洲公園東側地ニ集中シテリ テ總領事ヲ監督下ニ自治シツナリ	十月八日覽石ニ移動完了セリ	廣東市東側附近ニ集結中ナリ 居留民約六〇〇名ハ十月四日 黃浦附近ニ移動集結完了セリ 未タ崩レカ、充分ナラズ	別ニ大治方面ニ約一八〇名集結中 下ルモ状況不明ナリ	南昌地區引揚居留民ト共ニ約 一八〇名集結ヲ完了シ安全ニ保護 セラレナリ
	14/10	5/10	25/10	6/10	5/10		28/9

裏面白紙

考 備	南	華 東	中			
			漢	江	九	
日昨ハ報告ヲ受ケタル目時トス	十月八日田安站通過都隊突中門 内外宿舎約一萬一千名迄集結完了 下ルモ「警」故苗ノ平均ニ名成終	漢口漢陽武昌孝感信陽廣山 應城荆門當陽宜昌天門沙市 岳州長沙方面在留邦人及廣東 汕頭方面ヨリ引揚邦人ハ同日奉 租界聯絡回海軍運勳揚美 享石洞會社倉庫及軍乙号丁字 宿舎ニ集結シテリ 粵海面積一人 當口五坪ナリ				
			4/11	10/10	28/9	16/10

漢口改定以外ノ  
引揚邦人ハ冬  
季被服種々テ  
不充分ナリ



二 兵 五 居 留 民 ノ 給 養 状 況

集中營集中候ノ給養ハ「中國境内日本居留民集中管理辦法」ニ依リ生必物資及其ノ原有ノ糧食ヲ發行フ許可セラレ居テ各居留民保有ノ糧食ノ供給ニ依リ副食ハ保衛資金ニ依リ輸入實施シアル現大ナルモ保有糧食僅クニシテ加之引揚居留民全數特ニ蒙藏地區引揚居留民約二萬七千ハ殆んど無一物ニテ引揚タル狀況ニシテ且各地ニ於ケル物價騰貴ノ現狀ニ鑑ミ之ガ給養ニ就テハ極クテ艱難ナル可キ狀況ニアリ(參照表參照)

三二

ニ日本官兵ト同一待遇ニシテ各該地有市政府ニ於テ擔任スル如ク定メラレアルモ米穀實物ニハ主ラズ且居留民ノ特殊仕ニ鑑ミ目下成年、幼年、乳幼児、病弱者別ニ之ガ補給方及被服ノ支給必要止ムヲ得サル資金ノ貸與ニ付交渉中ナリ

ニ現在迄ニ判明セル各地居留民ノ給養狀況

居省居留一、〇〇〇名ハ與中門外ニ集中糧食、燃料尠ネ三ヶ月保有シアリ副食ハ市中ヨリ購入シテ現在給養費一人一ヶ月備備券三〇萬元程度ナルモ困窮ノ爲給養ヲ要スルモノ相當數アル現狀ナリ

2. 上 海

上海市内虹口地區ニ於テ在留邦人約一〇萬臨時指定居住地區ニ集中各人保有糧食資金ニテ給養生活中ナルモ相當ニ逼迫セル者ヲ生ジアリ

3. 澳 口

各家族並ニ總領事館保有ノ主食ハ十月二十三日現在約二十五日  
分ヲ發シ調休仕、薪炭ハ皆無ニシテ中國人ヨリ購入シアリ、現  
在貧困ニシテ給養シアル者約三百名ニシテ逐次激増ノ見込ナリ  
同管理辦法ニ基ク中國側ノ給養ハ目下折衝中ナルモ十二月上旬  
ヨリ開始ノ決定ニシテ共ノ間ノ給養ハ前記保有量ヲ相互ニ融通  
シ窮乏ヲ救ギテアル現狀ナリ

4. 厦 門

手持糧食並ニ資金ハ辛シテ十一月末マデ支ヘウルニ過ギズ現地  
借款ヲ手續中ナルモ所妥資金ノ確保ハ至難ニシテ高物價ト共ニ  
給養生活ハ益々恣威ヲ受クルモノト豫想セラル、給養確保ニ付  
何總司令部ニ申請中ナリ

5. 廣 東

手持糧食ハ十一月末迄ナルモ副食費ハ第二區兵站總司令部ヨリ  
果園ニテ一括受領交付シアリ

屬表

各地區糧食燃料需品保有狀況表 總連絡部

地區別	品目	保有量	備註
南 京	白米	二〇二〇〇	初
	精麥	一〇〇〇〇	初
	豆醬	三〇〇〇	初
	食塩	五〇〇	初
	食油	一〇〇	初
	砂糖	一〇〇	初
	洋燭	一〇〇	初
	火柴	一〇〇	初
	水炭	一〇〇	初
	雜糧	一〇〇	初
北 平	白米	一〇〇〇	初
精麥	一〇〇	初	
豆醬	一〇〇	初	
食塩	一〇〇	初	
食油	一〇〇	初	
砂糖	一〇〇	初	
洋燭	一〇〇	初	
火柴	一〇〇	初	
水炭	一〇〇	初	
雜糧	一〇〇	初	
汕 頭	白米	一〇〇	初
精麥	一〇〇	初	
豆醬	一〇〇	初	
食塩	一〇〇	初	
食油	一〇〇	初	
砂糖	一〇〇	初	
洋燭	一〇〇	初	
火柴	一〇〇	初	
水炭	一〇〇	初	
雜糧	一〇〇	初	
九 州	白米	一〇〇	初
精麥	一〇〇	初	
豆醬	一〇〇	初	
食塩	一〇〇	初	
食油	一〇〇	初	
砂糖	一〇〇	初	
洋燭	一〇〇	初	
火柴	一〇〇	初	
水炭	一〇〇	初	
雜糧	一〇〇	初	
人 口	66 / 人		

三、太平洋島嶼ヲ含ム南方各地ノ状況

英艦軍ヨリノ報告ナク正惟ナル資料ヲ收集シ得ザルモ各軍ハ九月上  
旬乃至中旬頃夫レ聯合軍團ノ指示ニ基キ行動ヲ開始シ概ネ順調ナル  
経過ヲ辿リ現集結位置ニ集合シ船組ノ廻航ヲ待チツツアルモノノ如  
ク比島、沖繩、太平洋島嶼ニアリテハ既ニ其ノ一部又ハ大部ハ復員  
中ナリ

佛 印

北部佛印ニハ、  
フオン一地區ニ兵力ヲ集結シ歸還率  
備中ナリ

南部佛印ニ於テハ西貢ヲ中心トシ安南人ノ暴動發生セシモ英、佛  
軍ニ鎮壓セラレ目下平靜化セルモノノ如シ

日本軍ハ西大條中將指揮下ニ其ノ大部ハ治安維持ニ從事シナリ

三、緬甸、泰

緬甸方面軍ハ「シツダン」川以南「テナーリム」地方ニ集結シ  
方面軍司令官ハ十二月二十二日以降敵貢ニ在リ  
集結地ノ状況極度ノ不便ヲ方回車ノ實狀ヨリシテ食糧竝衛生状態  
共ニ不良ナルベント判斷セラル

三、馬 來

第七方面軍ヲ中心トスル部隊（第五航空軍司令官木下中將以下ア  
ンダマン」「ニコバル」及馬來ノ部隊）ハ新嘉坡南方「ワオレン  
パン」島ニ移駐ヲ命ゼラレ目下其ノ全兵力ヲ集結中ナリ  
南方總軍司令官以下約五〇名ハ十二月一日以降新嘉坡ニ位置スル  
豫定ナリ

食糧事情ニ關シテハ情報アリモ困難ナル狀況下ニアルモノト考察  
セラル

「スマトラ」地區ノ兵力移駐ハ示ダ實施セラレアラザル模様ナリ

三、屬 印

第十六軍主力ヲ含ム河入部ノ部人ハ「バンドン」及其他ノ地區ニ  
集結ナルモ中、東部地區ニ於テハ食糧漸次缺之ヲ來シツツアル  
モノノ如シ

又「スラバヤ」附近ヲ中心トスル東部及中部ノ印度「ネシャ」人  
急近派今尙聯合軍ニ反抗シツツアリテ形勢必ズシモ樂觀ヲ許サザ  
ルモノアリ

「スマトラ」地區ノ第二十五軍ハ依然廣地域ニ分散シ治安維持ニ  
任シアルモノノ如シ

四、「ボルネオ」「セレベス」「ニューギニア」

婆洲占領下ニナル我軍ノ狀況詳細明カナラザルモ「ボルネオ」地  
區ハ「クチン」及「アバリ」「サンダカン」ニ「セレベス」方面  
ハ各主要都市ニ集結ヲ命ゼラレ實施中ナルモ食糧不足シ極メテ困  
難ナル狀況下ニアルモノト判斷セラル

第八方面軍ハ「ラバウル」周邊ニ集結シ概ネ自活シアルモ第十  
八軍ハ「ウエワノ」對岸ノ「ムシ」島竝「カイリル」島ニ十月末  
集結ヲ完了セリ  
第十七軍ノ狀況亦明カナラズ

五比

呂宋島ニアリタル第十四方面軍主力ハ「マニラ」南方地區ニ收養  
セラレ逐次内地ニ返送セラレツツアリ  
食糧狀態不良ナルモノノ類シ  
呂宋外、第十四方面軍部隊モ呂宋島ニ集結セシメラレツツアルガ  
如キモ陽カナラズ  
比島殘存總兵力ハ十二、三萬ニ達スベシト稱セラルルモ尙一部ハ  
依然敵陣中ノモノアリト

六太平洋

太平洋方面ニ殘存セル部隊中給養最モ不良ナル方面ヨリ既ニ復員

三七

輸送ヲ實施中ナリ

復員輸送狀況

一、外地部隊復員並居留民歸還ノ爲現ニ使用シアル船隻左ノ如シ

(一) 一般船隻 四八隻 一六一、五三一總屯

右使用内譯

ノ南緯方面

十八隻 二九、二三七總屯

(内譯)

船隻中十一隻 一七、八四八總屯

航空停止中(故障)七隻 一一、三八九總屯

十三隻(物動研用) 四七、七六三總屯

(註) 物動研用船一在硫磺島同石炭輸送復航歸還輸送

(小計) 三十一隻 七七、〇〇〇總屯

2、中北支方面 四隻 二六、九七七總屯



西隻 一八、七八一機重  
 四隻 一、四六八機重  
 二隻 四、五六六機重  
 三隻 二、七三九機重  
 三隻 運送者ニ修管時  
 十九隻、十八、三三〇機重（米倉院）

西隻 〇三七機重  
 一四、二九三機重  
 二一四、〇二四  
 西隻 〇三七機重  
 一四、二九三機重  
 二一四、〇二四

西隻 〇三七機重  
 一四、二九三機重  
 二一四、〇二四  
 西隻 〇三七機重  
 一四、二九三機重  
 二一四、〇二四

西隻 〇三七機重  
 一四、二九三機重  
 二一四、〇二四  
 西隻 〇三七機重  
 一四、二九三機重  
 二一四、〇二四

西隻 〇三七機重  
 一四、二九三機重  
 二一四、〇二四  
 西隻 〇三七機重  
 一四、二九三機重  
 二一四、〇二四

西隻 〇三七機重  
 一四、二九三機重  
 二一四、〇二四  
 西隻 〇三七機重  
 一四、二九三機重  
 二一四、〇二四

西隻 〇三七機重  
 一四、二九三機重  
 二一四、〇二四  
 西隻 〇三七機重  
 一四、二九三機重  
 二一四、〇二四

西隻 〇三七機重  
 一四、二九三機重  
 二一四、〇二四  
 西隻 〇三七機重  
 一四、二九三機重  
 二一四、〇二四

西隻 〇三七機重  
 一四、二九三機重  
 二一四、〇二四  
 西隻 〇三七機重  
 一四、二九三機重  
 二一四、〇二四

西隻 〇三七機重  
 一四、二九三機重  
 二一四、〇二四  
 西隻 〇三七機重  
 一四、二九三機重  
 二一四、〇二四

西隻 〇三七機重  
 一四、二九三機重  
 二一四、〇二四  
 西隻 〇三七機重  
 一四、二九三機重  
 二一四、〇二四

西隻 〇三七機重  
 一四、二九三機重  
 二一四、〇二四  
 西隻 〇三七機重  
 一四、二九三機重  
 二一四、〇二四

裏面白紙

「トコベイ」ヨリ「メリル」ヨリ大東島ヨリ運送ノ終了ス

自九月二日迄十一月二十五日間ノ歸還者送還者及十一月二十五

日現在外地發行人員別紙第一、第二ノ如シ

三、日本人ニシテ元俘虜トナリアリタル者ノ歸還状況

十一月二十一日 陸軍四〇一名 其ノ他不明

四、華僑ノ送還者ハ十一月二十五日現在

歸人 三七八、八五八名（内軍人九、八八八名）

華人 五、五二七名

別紙第一

自九月二日  
至十一月二十五日

歸還輸送資格及十一月二十五日現在各方面別殘留人員表  
歸還人員送還音節

十一月三十日  
資料採

地名	陸軍人員			海軍人員			一般			計			備考
	終戰時人員	帰還人員	残	終戰時人員	帰還人員	残	終戰時人員	帰還人員	残	終戰時人員	帰還人員	残	
樺太	12,000	0	12,000	0	0	0	40,000	0	40,000	52,000	0	52,000	一、終戦時、各方面、人員の帰還、輸送、資格、調査、結果、を、示す。二、各方面、人員の帰還、輸送、資格、調査、結果、を、示す。三、各方面、人員の帰還、輸送、資格、調査、結果、を、示す。
千島	42,000	0	42,000	2,000	0	2,000	4,000	0	4,000	48,000	0	48,000	
朝鮮	703,000	0	703,000	0	0	0	1,000,000	5,000	1,005,000	1,703,000	0	1,703,000	
支那	1,556,000	672,000	2,228,000	16,000	5,964	10,036	730,000	229,281	959,281	1,001,240	1,225,281	2,226,521	
南西諸島	41,120	3,741	44,861	10,777	5,183	5,594	750	0	750	52,655	9,960	62,615	
台湾	202,000	0	202,000	45,247	0	45,247	500,000	0	500,000	747,247	0	747,247	
中部太平洋	33,977	10,901	44,878	22,171	10,512	11,659	12,575	215	12,790	26,244	21,638	47,882	
バチカンの諸島	23,783	1,766	25,549	8,973	1,482	7,491	11,496	1,121	12,617	44,252	4,369	48,621	
比島	100,000	4,072	104,072	12,000	1,032	13,032	55,000	10,546	65,546	217,000	12,578	229,578	
小笠原	20,000	3,504	23,504	15,000	2,400	17,400	113	113	17,513	35,113	1,113	36,226	
南西方面	623,390	0	623,390	114,305	0	114,305	54,657	0	54,657	792,354	0	792,354	
マニラ	18,000	0	18,000	不詳	0	不詳	0	0	0	67,000	0	67,000	
フィリピン	8,000	0	8,000	不詳	0	不詳	0	0	0	2,000	0	2,000	
ソロモン	16,000	0	16,000	不詳	0	不詳	0	0	0	16,000	0	16,000	
計	3,250,000	772,000	4,022,000	390,000	21,612	411,612	2,770,000	251,124	3,021,124	6,510,000	1,226,281	7,736,281	

一														
二														
三														
四														
五														
六														
七														
八														
九														
十														
十一														
十二														
十三														
十四														
十五														
十六														
十七														
十八														
十九														
二十														
二十一														
二十二														
二十三														
二十四														
二十五														
二十六														
二十七														
二十八														
二十九														
三十														
三十一														
三十二														
三十三														
三十四														
三十五														
三十六														
三十七														
三十八														
三十九														
四十														
四十一														
四十二														
四十三														
四十四														
四十五														
四十六														
四十七														
四十八														
四十九														
五十														
五十一														
五十二														
五十三														
五十四														
五十五														
五十六														
五十七														
五十八														
五十九														
六十														
六十一														
六十二														
六十三														
六十四														
六十五														
六十六														
六十七														
六十八														
六十九														
七十														
七十一														
七十二														
七十三														
七十四														
七十五														
七十六														
七十七														
七十八														
七十九														
八十														
八十一														
八十二														
八十三														
八十四														
八十五														
八十六														
八十七														
八十八														
八十九														
九十														
九十一														
九十二														
九十三														
九十四														
九十五														
九十六														
九十七														
九十八														
九十九														
一百														

一、五、十、十五、二十、二十五、三十、三十五、四十、四十五、五十、五十五、六十、六十五、七十、七十五、八十、八十五、九十、九十五、一百

前月より一取置き致し、終戦直後滿洲方面より脱上南下見者（住少）は、  
4月より要報南方方面は、  
報表は、

五、三、四、七  
八、九、二  
六、四、五、九、六  
八、六、二、三、四  
二、一、六、二、八

	0	154	277	0	0	4774	0	4174			
同日	1714			26	0	0	0	0			
157	2144	242	206	250	1	1114	412	385	27	10	三九八八三
137	889	0	13	0	0	14	14	0			
157	554	1821	471	2	1177	1107	922	10740			
1000	4072	2544	1244	2072	11466	5700	12446	42454	21700	1510	
	225	1					11				
	2-2	1-6									
	507	1-9									
255000	111	1200	180	500	1000	2700	4100	1000			
		六二	120		一	3.2					
		三	1200		四	4.10					
42300		三九	1200		三	14.00					
2130			4200		二	6.10					
11200			4140			4.4					
7020			2100								
2210			273			4.200					
73100			120			11					
1000			600			8					
620			2000			11					
62300			4070			4.70					
	0	1000		0	1						
	0	6000									
	0	16000	1								

約 約 約 約  
 22500 21.317 2.8000 392.00 26.612 361500 21.000 28.240 3000 10.000  
 行且諸島の般運奇績  
 正軍 22.712 (大島 13.840 八丈島 14.377 新島 1.500 三宅島 1.500 15.7 3.400 4.400)

裏面白紙

一、米 軍 第二 東亞ニ於ケル各國軍ノ狀況

米國ハ世界情勢ノ推移ヲ觀察シツツ 明年六月頃歐洲占領  
 兵力ヲ三十七萬、太平洋地區占領兵力ヲ八十七萬、本國豫備兵  
 力百八十五萬ト概定シ 遂次兵力ノ復員ヲ實施中ニシテ 前米軍參  
 謀總長ノ言明スル所ニ依レバ 滿二年後ニハ 陸軍總兵力ヲ約百五  
 萬ニ削減シ 日本及歐洲占領兵力ヲ夫々十五萬ニ縮少シ 本國ニ於  
 テハ 四百萬動員ノ能力ヲ保持セントシ 太平洋方面ヨリノ兵力復  
 員ヲ左ノ如ク 豫定シアルモノノ如シ

- 十一月 二十三萬七千
- 十二月 商 右
- 一月 十七萬九千
- 二月 十七萬八千
- 三月 十七萬八千

四月	五月	六月	七月
約 計七十萬			

人 日本(朝鮮)

戰爭終了ニ伴ヒ帝國本土ニ 運駐セル米軍ハ 十一月初旬別紙要  
 圖ノ狀態ニ達シ 爾後我本土内ノ 情況ニ 鑑ミ 遂次兵員ノ 本國復  
 員ヲ企圖シアリ  
 斯クテ 明年春頃ニ於テハ 日本及朝鮮ニ於ケル米軍ノ 總兵力ハ  
 約二十一萬、 沖繩ノ 兵力ハ 約三萬六千、 比島ノ 兵力ハ 約七萬  
 ニ達スルモノノ如シ  
 其情況別紙要圖ノ如シ

2. 支 那

米國(支那)ノ 内政ニ 干與セズトノ 政策ヲ 表明シ 「ウエデマイヤ

一 將軍ハ當初在支米軍兵力ヲ明年一月迄撤退スベキヲ言明セ  
ルモ最近ニ於ケル「ソ」支關係就中支那國交情勢ニ影響ヲ受ケ  
北支ヨリ今直ニ海兵團ノ撤退ヲ考慮シアラザルコトヲ確言スル  
所ナリ

向中國軍ノ米式化師團ハ七十ヶ師團ニアラズシテ三十九ヶ師團  
トノ情報アリ

3. 東南「アジャ」印度方面

米軍ノ駐屯兵力ニ關シテハ明カナラザルモ大ナル兵力配置セラ  
レアラザルヤニ觀察セソル

4. 北 島

在比米軍ハ逐次兵力ヲ撤収中アルモノノ如キモ明年春ニハ向約  
七萬ノ兵力ヲ保有スルモノノ如シ

5. 太平洋島嶼

明カナラザルモ海空基地トシテ是處守備兵力約一〇萬ヲ駐屯セ

四一

シハル外有力ナル航空部隊ヲ常置シアルモノノ如シ

6. 「アラスカ」方面

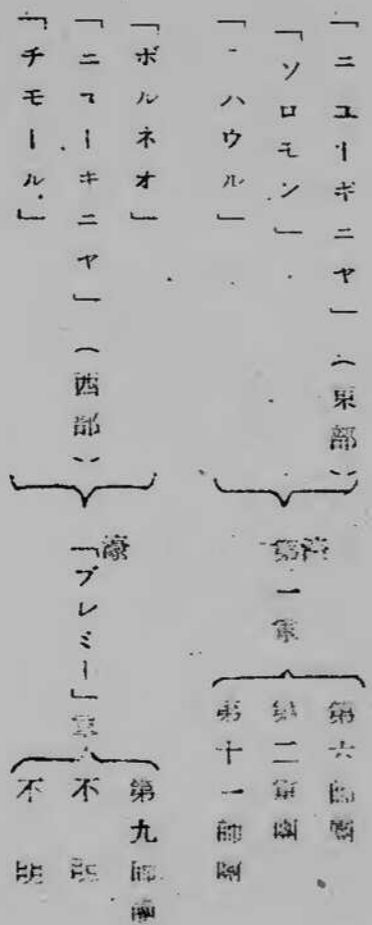
現在守備兵力約四萬六千ナルモ明年七月ニハ二萬八千ニ縮少ス  
ル隊定ナリ

最近米「ソ」關係ニ鑑ミ「アラスカ」方面ノ航空防衛ニ關スル  
關心増大シツツアルモノノ如シ

三、英、濠、蘭、佛

英國ハ東亞「アジア」聯合軍ヲシテ南方一帯ヲ占領セシメ第十  
 二軍ヲ以テ「ビルマ」ニ馬ルニハ第十四軍ヲ以テ等ニモ英軍  
 ヲ進駐セシメタルベシト雖モ其ノ状況詳ナラズ  
 爪哇ニハ英第二十三師團ヲ撤退シアルモノノ如シ  
 「ニューギニヤ」「ソロモン」「ボルネオ」一セレベツ」諸島  
 ニ對シテハ左ノ如ク濠蘭駐セルモノノ如ク其ノ後ノ状況詳カ

ナラズ



二、和、蘭、軍

和蘭ハ十一月末迄一萬ノ兵力ヲ本國ヨリ爪哇ニ派遣セルモノ  
 ノ如ク主トシテ英軍ノ支援ヲ得テ「印度ネシヤ」ノ叛亂軍ヲ  
 鎮定中ナリ



3. 佛 車  
佛國亦忽越歐洲ヨリ兵力ヲ派遣シ佛印ニ上陸セシメ西貢ノ叛  
亂ヲ鎮定シ中國ト共ニ佛印ノ管理ニ任ジ  
爾レテハ評報ナシ

裏面白紙

峽島洋平					第11A		南										日本軍区分		
元	カ	本	バ	上	新	ノ	2	7				18		ビルマ		14			
他	ツ	十	ラ	ラ	部	A	A	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7		
10/9	(5/9)	(5/9)	5/9	9/1		17A	2A	37A	16A	25A	29A	38A	39A	15A	28A	33A	14HA		
						漆 (8/9)	漆 (1/9)	漆 (9/9)	漆 (9/9)	漆 (9/9)	漆 (9/9)	漆 (9/9)	漆 (9/9)	漆 (9/9)	漆 (9/9)	漆 (9/9)	漆 (9/9)	調印日時(調印筆)	
東南亞細亞聯合軍最高指揮官 (12/9) 調印																			
運次復員中ナリ					ニバウル	カケリル島	明カララマ	全	各要點ニ集結中ナリ	廣地獄ニ分散主リノ治安維持ニ協力シテ	リオ島ニ集結中ナリ	局地的ニ部隊毎ニ集結シテ	シツタ川以南	マニラ南方地帯				現集結位置	
運次復員中ナリ									大部分武装解除中ナリ	大部分武装解除中ナリ	大部分武装解除中ナリ	大部分武装解除中ナリ	大部分武装解除中ナリ	大部分武装解除中ナリ	大部分武装解除中ナリ	大部分武装解除中ナリ	大部分武装解除中ナリ	大部分武装解除中ナリ	一般状況

三、支那軍

一、蒋介石ノ統率力

ノ終戦處理並ニ將來スル戦後復興上ノ要請ヨリシテ蒋介石ノ軍威  
兩面ニ亘ル統率力ハ依然強大ナルモノアルベク又統一國家ノ完  
成ニ對スル強烈ナル民族意識ノ昂揚ハ更ニ之ヲ強化スベシト思  
行セラル

二、重慶中央軍ハ今後國家統一ノ爲ノ政治的地位ヲ濃化スルト共

ニ他面共黨制壓ノ爲ノ推進力トシテ依然強力ニ保持セララルベシ  
現有スル米式化制二〇箇師ハ其中核トシテ國防軍的地位ニ立ツ  
ベク諸師ノ直系軍ヲ含メ約一〇〇箇師(約二〇〇萬)ヲ以テ新  
恢復地区ノ接収滿洲諸島等ニ對スル進駐ニ任ゼシメ他ニ一般治  
安軍隊トシテ湯系區系台シテ約一〇〇箇師(約一〇〇萬)ヲ保  
有スルニ努ムベシ  
右ノ外海軍ノ建設ニ對シテハ急進ニ之ヲ實現化ヲ企圖スベシ

前シテ石ハ米ノ對支武器買兵法ノ停止ニ伴ヒ今後米軍ノ課定計  
畫タル米式化ニ〇四師ノ建設ハ中止ノ已ムナキニ至ルベシト雖  
モ新ニ約米「クレナツト」ノ設定ニ試ル武器獲得取ハ戰時生  
産局ノ延長等ニ依リ直系武力ノ充實ヲ企圖スベシ  
然レトモ戦後復興ノ爲メガ資材ノ優先利用ニ伴ヒ裝備ノ充實新  
軍建設ニハ此等ノ困難點在シアリト觀察セラル

三、復員兵ト對峙建設

ノ前途ノ如ク戦後必然的ニ急起セラルベキ復員兵問題ハ中國境  
下ノ情勢上之カ實地ハ俄メテ困難ナル事情ニ在リト謂フベク兵  
主要ナル原由ヲ三ツグレバ左ノ如シ  
一、和平地區接收ニ伴フ之ガ治安ノ確保  
二、南洲臺灣ノ接收ト之ガ占領  
三、對華女考慮  
ニ現抗戰基盤ノ保安

現任ノ重慶軍總兵力ハ約四〇〇萬ニシテ之ガ内容ハ中央直系軍  
約二〇〇萬中央傍系軍約一五〇萬挺進遊撃部隊約五〇萬ト判  
セラル

復員可能兵力ハ最大限一〇〇萬乃至一五〇萬内外ナルベク重慶  
ハ兵工政策ノ採用ニ依リ復員兵ノ建設作業参加ヲ施策スベキヲ  
以テ復員ニ伴フ失業問題乃至ハ社會不安等ハ惹起スル公算比較  
的勘カレヘシ

2. 重慶ノ戦後復興上取急要ナルハ經濟建設ニ在ルベシ之ガ爲先ツ  
基礎的産業符ニ工業化ノ促進建設資材ノ移入ヲ圖ルヘシ地域の  
ニハ海岸地帯ニ重點ヲ置キ基礎的平和産業ト軍備ノ充實ヲ伴  
行シツツ整備スルモノト判断セラル  
先ニ籌ヘラレタル約米二十億弗ノ借款舊和平地區施設人員ノ活  
用軍勝ノ和米トシテノ對日償債モ亦右方向ニ即應シテ運用セフ  
ヘシ

三、即共調你ト共產蘇軍ノ動向

1. 國共調整ニ關シテハ本行亦數次ニ亘リ主眼點ノ檢討アリ重慶ノ  
統一ニ對スル延安ノ民主政ヲハ感ノテ強烈ナルセノアリ而シテ中  
央ノ政治的振興ニ向フス向地ニ於テハ地盤確保ト切實ナル死活  
問題ヲ繞リ其ノ紛糾ハ谷務ニ安結スルニ至ラズ  
終取後ノ事態ニ應シテ更ニ蔣毛兩者ノ直接會談行ナハレ蔣介石  
ハ明年憲政實施之ニ先立ナテ民主黨ノ實現ヲ維持セルモノノ願  
シ

而シテ米儲ヨリスル重慶ヲ主眼トスル安撫態度アリ且又「ソレ  
等ノ對支内政ノ干渉聲明モアリテ當面兩者ノ問題ハ表面飽ク迄  
蔣介石ヲ中心トシ國民黨ノ積極的攻勢裡ニ推移シ行クモノト判  
断セラル

然レ共内面的ニハ延安勢力ハ之ガ爲決シテ弱化セラレサルベク  
其ノ潜在スル黨政兩面ニ亘ル組織力ハ依然強固ナルベク軍事制

ニハ一應對里威謀少ヲホスベキモ現在ノ既得地盤ニ於ケル其ノ  
努力ハ飽ク迄惟ハセラルベク今後「ソ」聯ノ介入ト之ガ暗黙的  
支援ノ度如何ニ依リ多クノ變化アルベキモ先ヅ滿洲蒙疆北部北  
支ノ政治的地盤並ニ北中又ニ於ケル黨ノ活動基盤ハ依然保持ス  
ルニ努ムヘシ

2 中基軍ノ軍事努力ハ第十八集團軍及新四軍隷下合シテ華幹部隊

約五十萬他ニ民兵トシテ約四百五十萬ヲ保有シアリ

其ノ軍事政治的地盤ハ日下重要都市交通線ヲ除キ南滿、北支、

蒙疆、江北（蘇桂安徽）一帯ニ及ビアリ

各方面ニ於ケル一ソノ一ノ進駐状況ハ他部トノ交迎、進駐ヲ遮断シタル爲脱出者、新聞等ノ断片的消息ニ依ルノ他ナクソノ實情ヲ把握シ得タルヲ遺憾トス

三北

進駐一ノ一軍ハ終戦後極メテ迅速ニ主要都市ヲ占領シ逐次態勢ヲ整理シツツアルモノノ如シ

(一) 戦備ノ充實ニ努力シツツアリ

(二) 軍用産業資材ノ搬出(エトシテ冷海方面)

(三) 主要交通ノ軌道改造(高麗支線追込線等)

(四) 長大地区ノ安堵化ト太平洋沿岸ノ旅順入港

(五) 滿洲國內ノ進歩ヲ強化シツツアリ

(六) 中共軍ニ對シテ武器ヲ供給シ戦力之ヲ支援シツツアリ

(七) 國民政府ノ南滿統制ハ一ソノ一軍ノ制肘ヲ受ケ末ダソノ縮ニ就

クニモフス

三北

三北 終戦時ノ凶入部隊ヲ正統軍ヲ以テ交代セシメ逐次二十八度線ニ對シテ懸念ヲ全ヘツツアルモノノ如シ

(一) 三十八度線ニ對シテ該線ニ對シテ兵力ヲ配直スルト共ニ陣地ヲ構築シツツアリ

(二) 三十八度線ニ對シテ該線ニ對シテ兵力ヲ配直スルト共ニ陣地ヲ構築シツツアリ

(三) 三十八度線ニ對シテ該線ニ對シテ兵力ヲ配直スルト共ニ陣地ヲ構築シツツアリ

三北

三北 終戦時ノ凶入部隊ヲ正統軍ヲ以テ交代セシメ逐次二十八度線ニ對シテ懸念ヲ全ヘツツアルモノノ如シ

(一) 三十八度線ニ對シテ該線ニ對シテ兵力ヲ配直スルト共ニ陣地ヲ構築シツツアリ

(二) 三十八度線ニ對シテ該線ニ對シテ兵力ヲ配直スルト共ニ陣地ヲ構築シツツアリ

三北

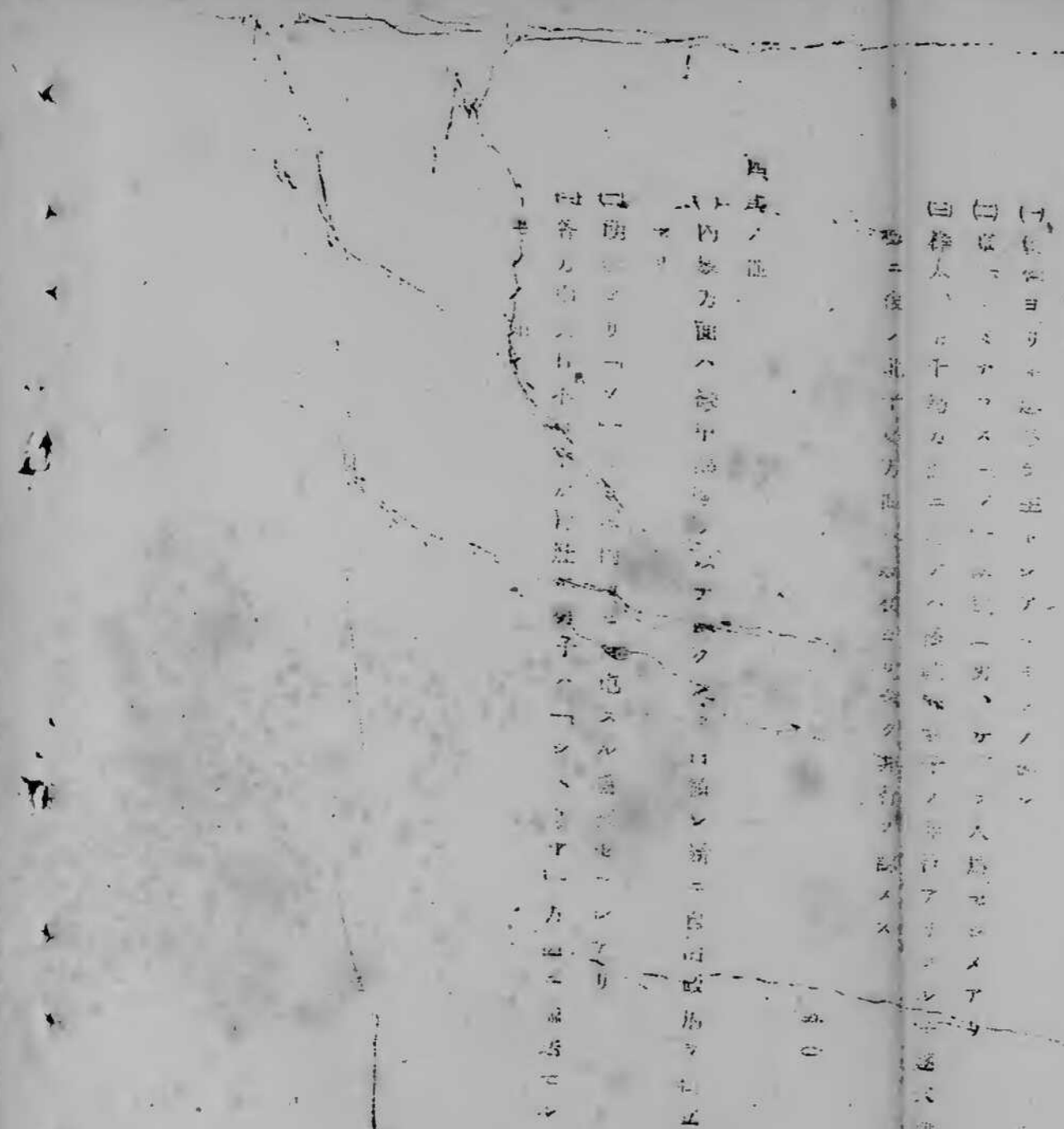
三北 終戦時ノ凶入部隊ヲ正統軍ヲ以テ交代セシメ逐次二十八度線ニ對シテ懸念ヲ全ヘツツアルモノノ如シ

(一) 三十八度線ニ對シテ該線ニ對シテ兵力ヲ配直スルト共ニ陣地ヲ構築シツツアリ

(二) 三十八度線ニ對シテ該線ニ對シテ兵力ヲ配直スルト共ニ陣地ヲ構築シツツアリ

三北

三北 終戦時ノ凶入部隊ヲ正統軍ヲ以テ交代セシメ逐次二十八度線ニ對シテ懸念ヲ全ヘツツアルモノノ如シ



西武ノ地

内務方面ハ被ノ地ハナクニハシテ口領ノ新ニ改メテトシ  
 四防ニテリノモリ  
 西武ノ地ニテリノモリ  
 西武ノ地ニテリノモリ

西武太木子局

(一) 西武ヨリテシテトシテトシテトシテトシテトシ  
 (二) 西武ヨリテシテトシテトシテトシテトシテトシ  
 (三) 西武ヨリテシテトシテトシテトシテトシテトシ  
 西武太木子局ニテリノモリ

(一) 三十人程度以上ノ又通ヲ起シテニテニテ  
 ラ止シテニテニテニテニテニテニテニテニテ  
 入ノ防止シテニテニテニテニテニテニテニテ  
 西武太木子局ニテリノモリ  
 (二) 西武太木子局ニテリノモリ  
 (三) 西武太木子局ニテリノモリ  
 (四) 西武太木子局ニテリノモリ  
 (五) 西武太木子局ニテリノモリ